

林木育種情報

No.20
2016.1

年 頭 所 感

林木育種センター所長 渡邊 聡

新年明けましておめでとうございます。

皆様には健やかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

今年は4月から、林木育種センターが属する国立研究開発法人森林総合研究所の新たな中長期計画（5カ年）がスタートします。この計画は、農林水産省が重要な課題として整理をする中長期目標を踏まえて策定されることとなっています。

昨年を振り返れば、新たな品種開発については、多様な品種の開発を行ったほか、開発の続くエリートツリーが「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法」に基づく「特定母樹」に指定され、この法律に基づき特定母樹を普及する民間事業体にも採種園・採穂園造成のための原種の配布が行われました。また、品種等の開発時間の短縮に向けたゲノム情報に基づく優れた系統の選抜技術の開発が行われ、個体の形質について一定程度推測が可能となりました。これによる育種の高速化が期待されます。

林木遺伝資源の保存については、効果的な保存方法等の技術開発に努めてきましたが、ジーンバンク事業の対象目的に「有用樹種の新需要の創出」を明示した中で、新たにコウヨウザンを対象とした遺伝資源の保存・評価を含めたプロジェクトが開始されました。

また、林木育種に係る海外協力については、様々な国との技術協力・共同研究を行っていますが、そのうち、ケニアでの育種プロジェクトについてはメリア（センダンのなかま）等の育種が進み、採種園造成を行い、ケニアの環境大臣からも高い評価を受けています。

一方、林木育種へのバイオテクノロジーの応用については、遺伝子組換えによって作出された無花粉スギについて、関係省庁の承認を得て昨年4月以降隔離ほ場での野外栽培試験を行っています。

今年も多くの成果を生みだし、普及させるよう努力して参ります。皆様のご理解・ご協力をお願い致します。

【紙面紹介】

林野庁委託事業「マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業」（中間報告）	2
カラマツ特定母樹の指定に向けた取り組み	3
ゲノム編集：林木育種への利用にむけた技術開発（1）	4
防風・防潮効果に優れたテリハボクの育種研究	5

樹木の越冬メカニズムを利用して冬芽を-196℃で保存する	6~7
林業研究・技術開発推進ブロック会議育種分科会と特定母樹等普及促進会議を開催	7
一般公開「親林の集い」を開催	7
成果集の公表について	8

